

労働災害の現況

令和4年の概況

目次

1 労働災害の推移	……P1
2 月別の発生状況	……P2
3 業種別発生状況の推移	……P2
4 事故の型別発生状況の推移	……P3
5 起因物別発生状況の推移	……P3
6 事故の型・起因物別発生状況	……P4
7 年齢別発生状況	……P4
8 主要業種別経験年数別発生状況	……P5
9 主要業種別事故の型別発生状況	……P6

石川労働局 健康安全課

1 労働災害の推移

死傷者数は前年よりも大幅増加、死亡者数は1件増加

(1) 死傷者数

令和4年に発生した労働災害の休業4日以上死傷者数は、2,395人となり、令和3年よりも1038人(76.5%)の増加となった。(労働者死傷病報告の集計による人数。以下同じ。)

長期的な発生状況の推移は、図1のとおりであり、減少傾向にあって初めて1,000件を割った平成28年以降増加に転じ、令和4年はコロナウイルス感染症1,164人を含む大幅増加となった。

表1 前年との対比

対象年	死傷者数 (休業4日以上)	前年との対比		コロナウイルス感染症 によるもの
		増減	増減率(%)	
平成30年	1,250	97	8.4	
令和元年	1,155	95	7.6	
令和2年	1,158	3	0.3	53
令和3年	1,357	199	17.2	154
令和4年	2,395	1,038	76.5	1,164

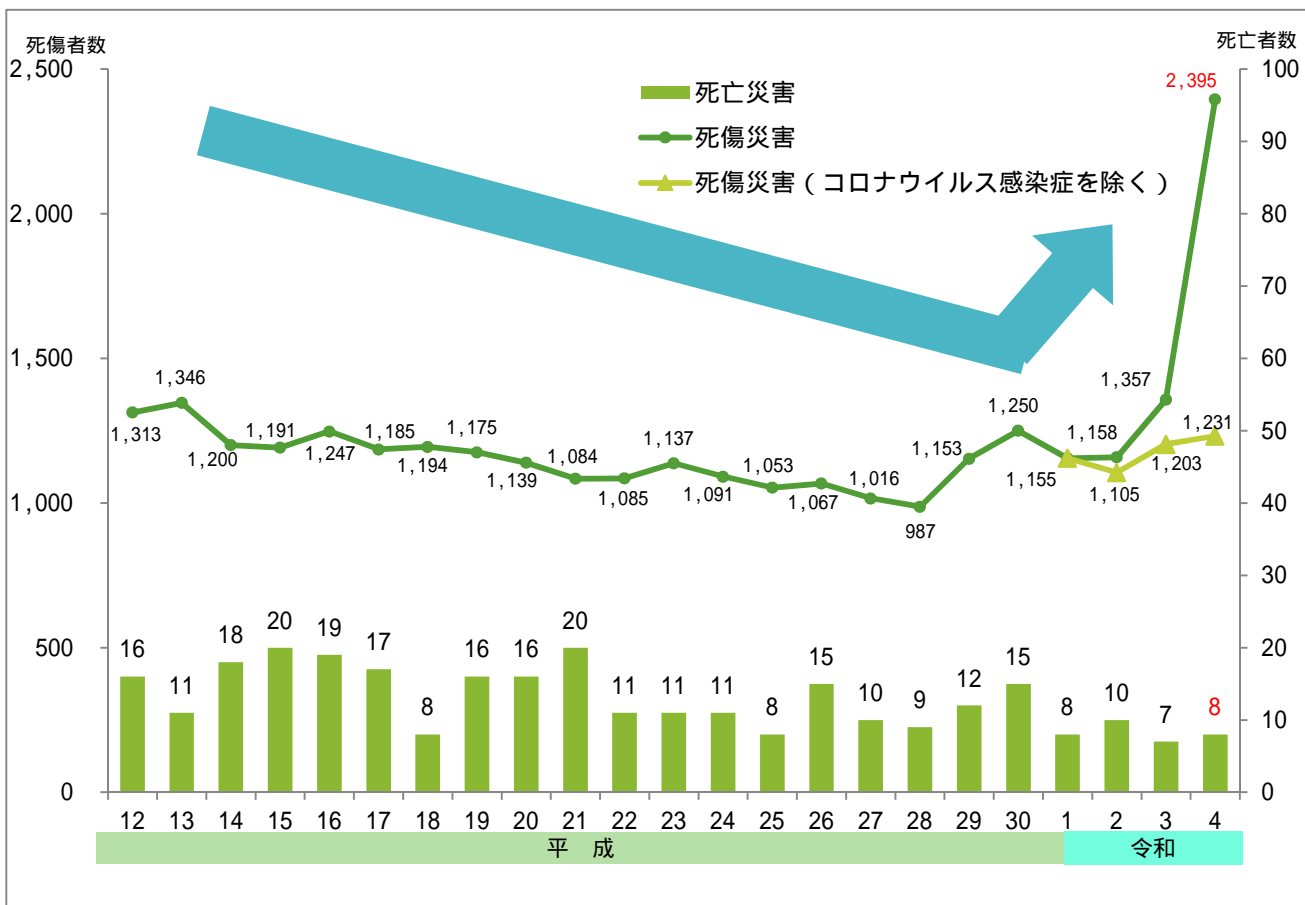
(2) 死亡者数

令和4年に労働災害によって死亡した労働者の人数は、前年の7人から1人増加して、8人となった。

業種別では、製造業2人、建設業2人、運輸交通業2人、畜産業1人、商業1人。

事故の型別では、「墜落・転落」が2人、「崩壊・倒壊」が1人、「はさまれ、巻き込まれ」が2人、「熱中症」が1人、「交通事故」が2人となっている。

図1 年別労働災害発生状況の推移

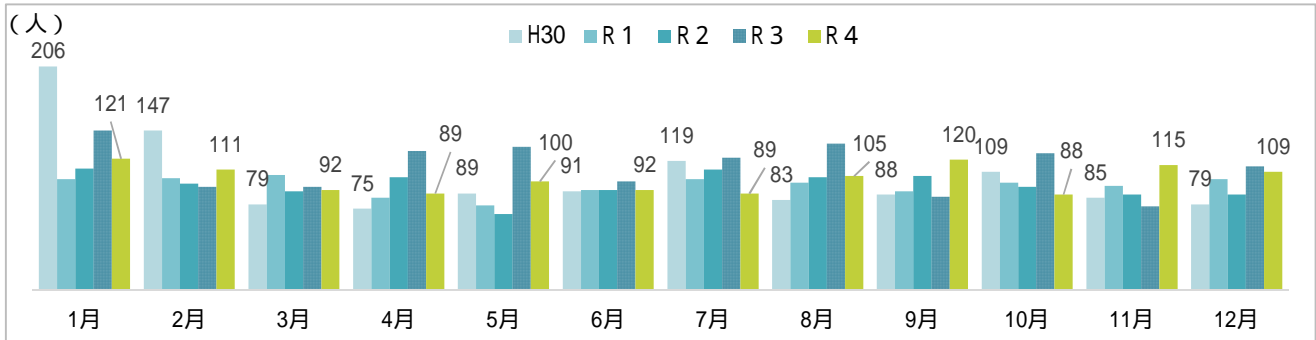


2 月別の発生状況

冬季の凍結等環境が影響

月別の発生状況では、平成30年の1月、2月の大雪による影響で大幅に増加し、令和4年1月、2月は、積雪・凍結等の環境による労働災害の発生が増加した。

図2 月別労働災害発生状況の推移（年対比） コロナウイルス感染症を除く



3 業種別発生状況の推移

第三次産業の占める割合が高く、製造業や運輸交通業で増加

(1) 製造業 コロナウイルス感染症を除く

死傷者数は278人となり、前年と比べて19人、7.3%増加した。業種中分類で細分化すると、繊維工業で前年比13人増加、木材・木製品製造業で前年比6人増加となったのに対し、一般機械器具製造業で前年比9人減少となり、金属製品製造業で前年比7人減少となった。死亡災害は前年の発生は無かったが、令和4年は2人発生した。

(2) 建設業 コロナウイルス感染症を除く

死傷者数は122人となり、前年と比べて17人、12.2%減少した。死亡者数は2人で、前年と比べて1人減少した。

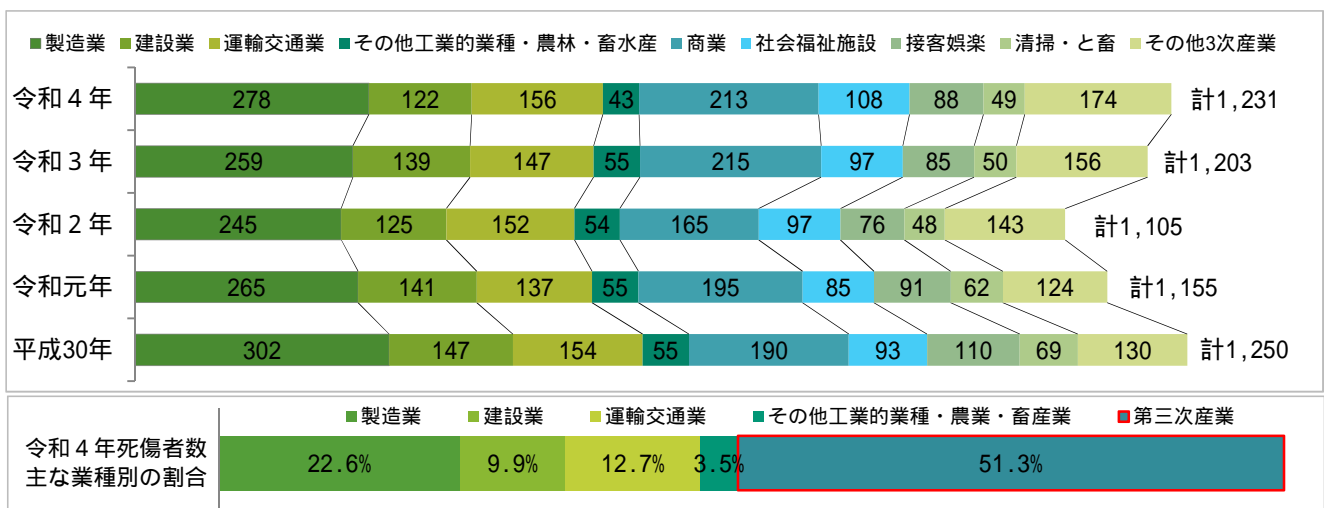
(3) 運輸交通業 コロナウイルス感染症を除く

死傷者数は156人となり、前年と比べて9人、6.1%増加した。死亡災害は前年の発生は無かったが、令和4年は2人発生した。

(4) 第三次産業 コロナウイルス感染症を除く

死傷者数は632人となり、前年と比べて29人、4.8%増加した。全産業に占める第三次産業の死傷者数の割合は51.3%と依然として高く、近年、増加傾向にある。業種中分類で細分化すると商業、保健衛生業で増加した。死亡者数は1人で、前年と比べて1人減少した。

図3 業種別の発生状況の推移 コロナウイルス感染症を除く



4 事故の型別発生状況の推移

通路、作業床等における「転倒」災害が増加

コロナウイルス感染症を除く事故の型別では、通路、作業床等における「転倒」災害の死傷者数が346人(全体に占める比率28.1%)と最も多く、次いで高所や階段等からの「墜落・転落」災害が277人(同22.5%)、「動作の反動・無理な動作」が120人(同9.7%)、「はさまれ・巻き込まれ」が112人(9.1%)となった。また、転倒災害のうち通路を起因とするものは、214人となり、増加傾向がみられる。

図4 事故の型別災害発生状況の推移 コロナウイルス感染症を除く

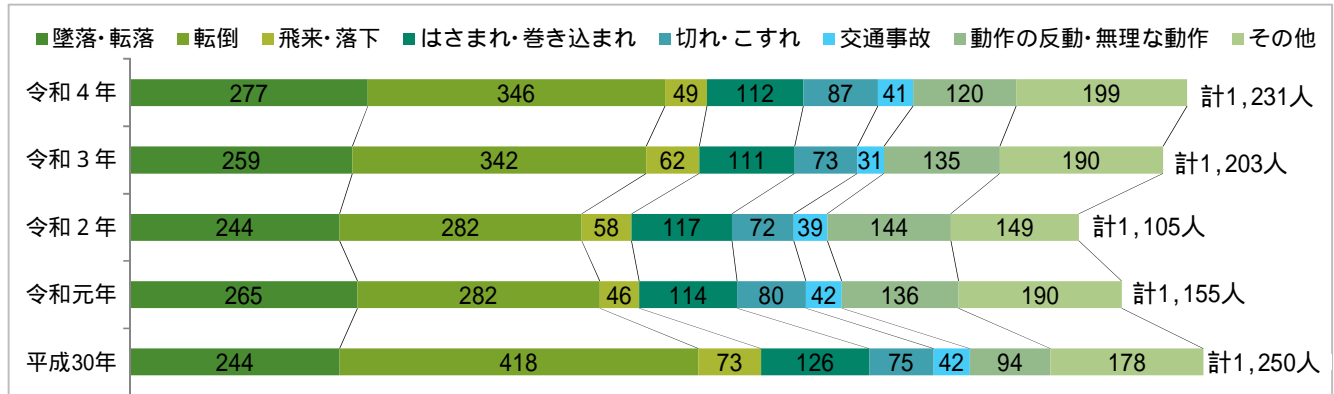
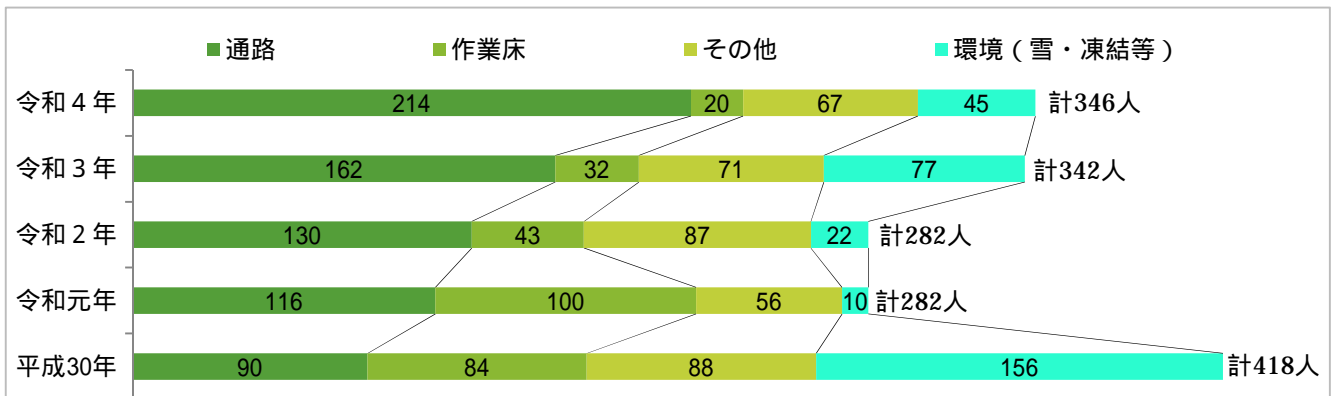


図5 転倒災害の起因物別の発生状況 コロナウイルス感染症を除く

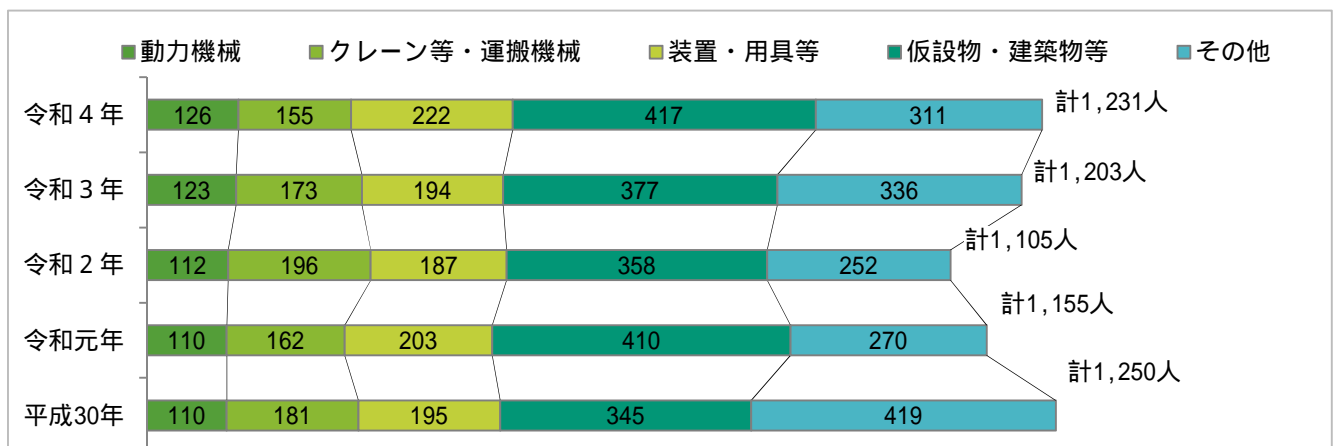


5 起因物別発生状況の推移

仮設物・建築物等の占める比率が高い

起因物別では、階段、通路、作業床等の「仮設物・建築物等」が417人(全体に占める比率33.9%)と最も多く、次いで、はしご、人力運搬機、手工具を含む「装置・用具等」が222人(同18.0%)、クレーン、トラック、乗用車などを含む「クレーン等、運搬機械」が155人(同12.6%)、となった。

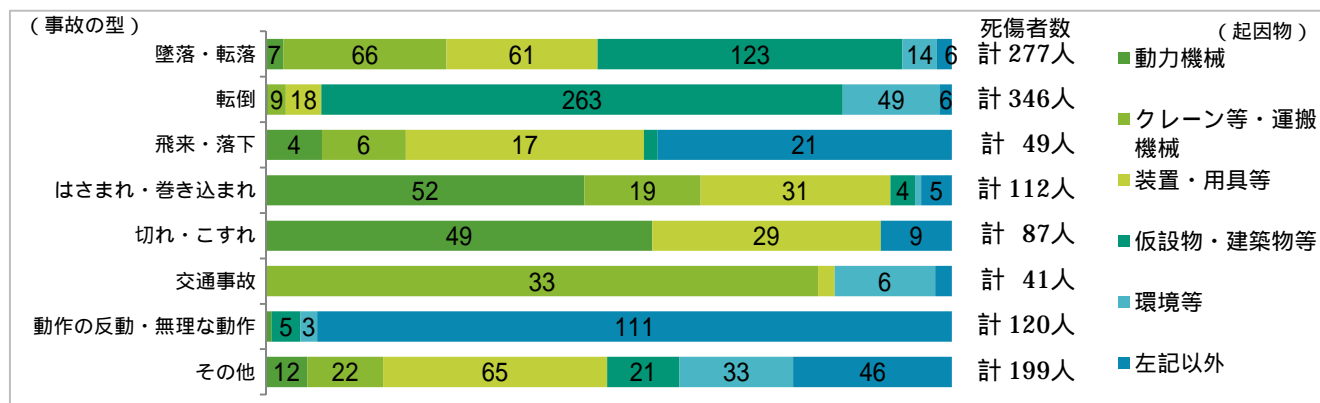
図6 起因物別の発生状況 コロナウイルス感染症を除く



6 事故の型・起因物別発生状況

最も死傷者数が多い「転倒」災害では、作業床、通路などを含む「仮設物、建築物、構築物」に起因するものが263人となり、次いで多い「墜落・転落」災害でも「仮設物、建築物、構築物」に起因するものが123人となっている。この2つの事故の型の「仮設物、建築物、構築物」の合計は386人となり、全体の比率は、31.4%を占める。この他、「墜落・転落」災害のトラックを含む「クレーン等・運搬機械」に起因するものが66人、はしご等を含む「装置・用具等」に起因するものが61人、「はさまれ・巻き込まれ」災害の各種機械を含む「動力機械」が52人、「動作の反動・無理な動作」災害では、腰痛、関節捻挫等を含む「起因物なし」に分類されるものが102人となった。

図7 事故の型・起因物別発生状況、発生割合 コロナウイルス感染症を除く



7 年齢別発生状況

「50歳代」、「60歳以上」の死傷者数は、合計732人となり、全体の59.5%を占め、依然として過半数を超えている。社会福祉施設、小売業では、50歳以上の死傷者数の占める割合が約7割となり、高年齢労働者の災害発生率が高くなっている。

図8 年齢別発生状況 コロナウイルス感染症を除く

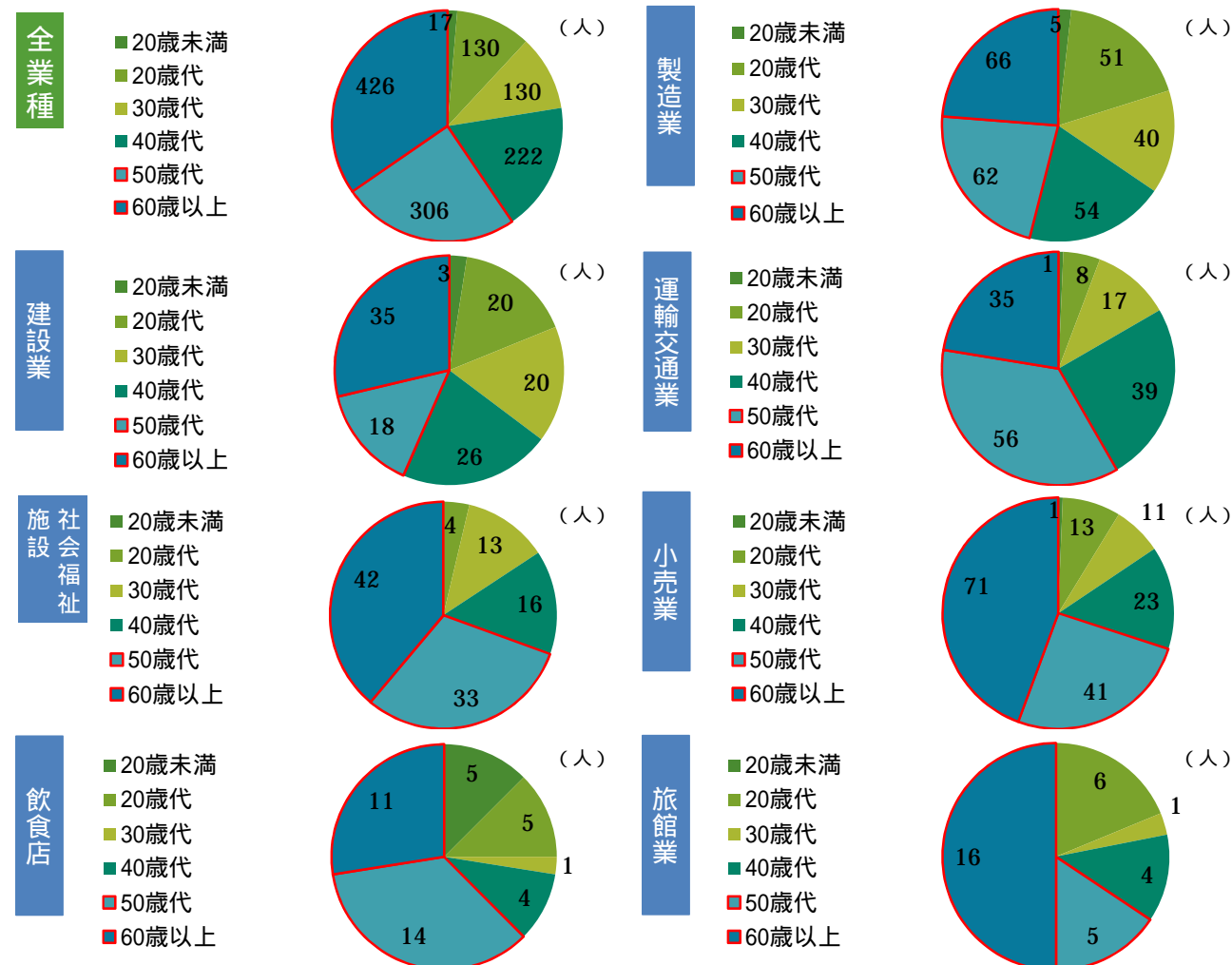
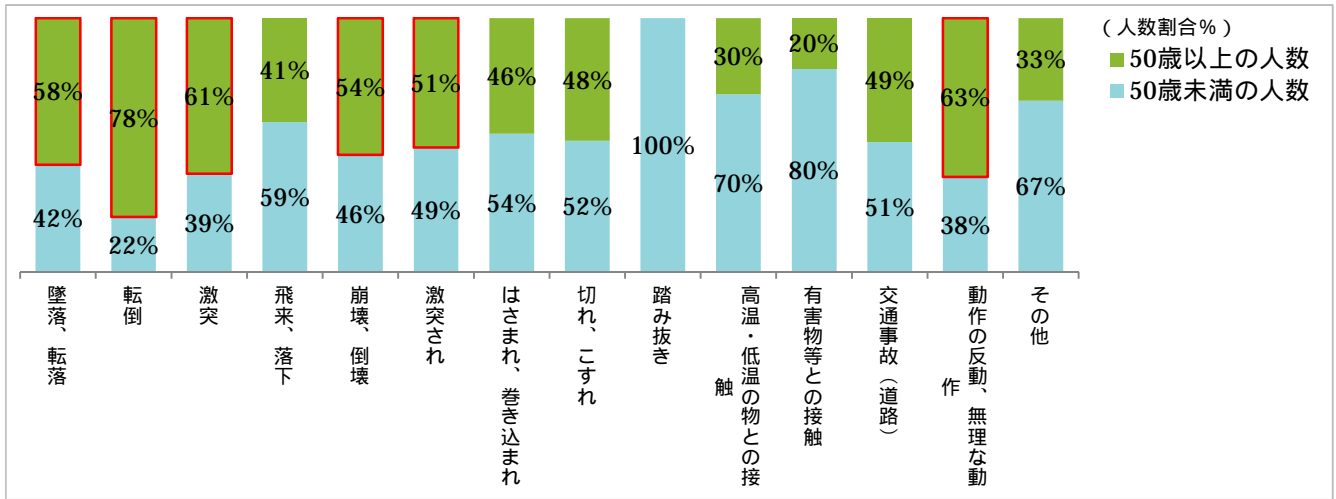


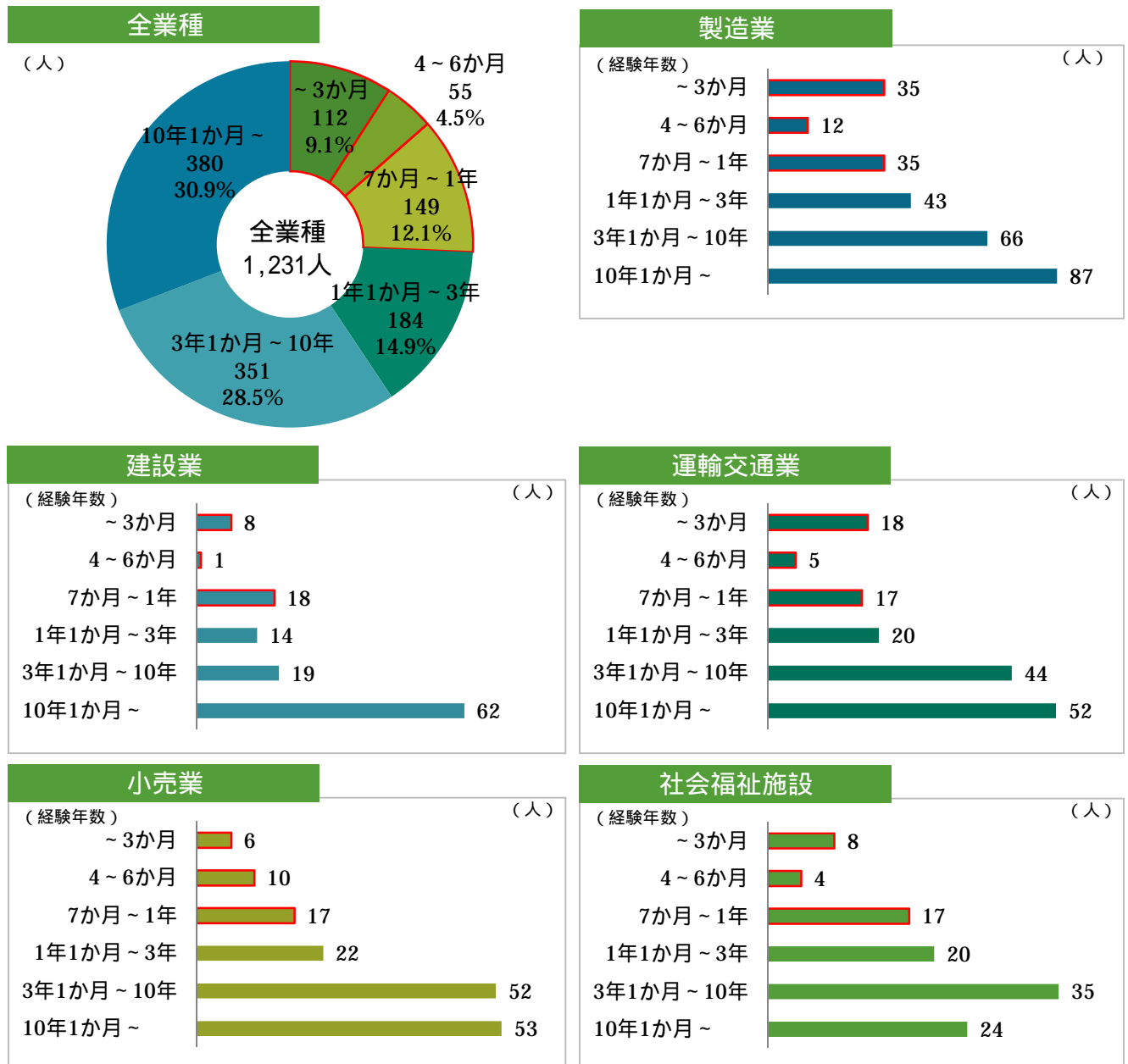
図9 事故の型別 50歳以上の割合



8 主要業種別経験年数別発生状況

経験年数別に見ると経験が1年以下の被災者数は、全体の25.7%を占め、昨年より1.8%増加した。また、業種を問わず「3年1か月から10年以下」の中堅労働者、「10年1か月以上」の熟練労働者の災害が多く発生し、全体の59.4%を占めており、その内、50歳以上の労働者の災害比率は68.0%となっており、発生率が高くなっている。

図10 業種別 経験年数別の労働災害発生状況 コロナウイルス感染症を除く



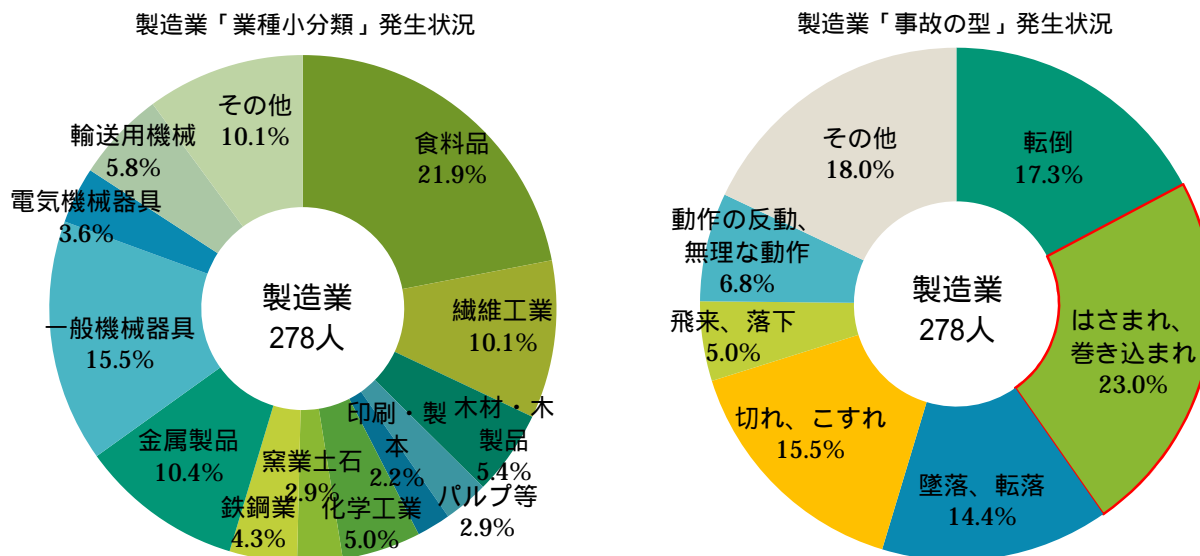
9 主要業種別事故の型別発生状況

製造業

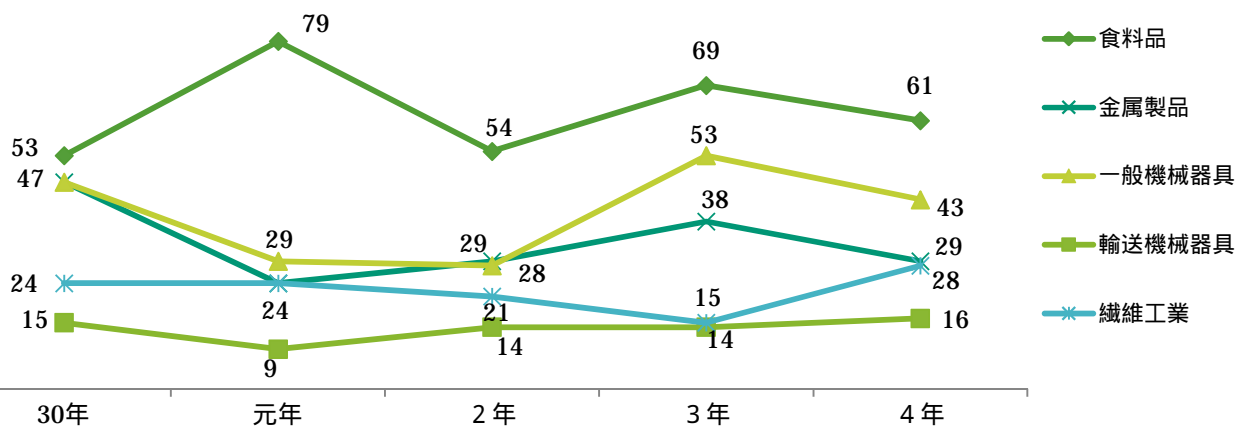
製造業の小分類別では、食料品製造が61人(21.9%)と最も多く、次いで、一般機械器具製造業が43人(15.5%)、金属製品が29人(10.4%)、繊維工業が28人(10.1%)となっている。死亡災害は、前年の0人から2人に増加した。

事故の型別では、動力機械等の「はさまれ・巻き込まれ」災害が64人(23.0%)と最も多く、次いで作業床、通路等での「転倒」災害が48人(17.3%)、「切れ・こすれ」災害が43人(15.5%)となっている。

図11 製造業における労働災害発生状況 コロナウイルス感染症を除く



製造業の主な業種の発生状況 (年推移) コロナウイルス感染症を除く

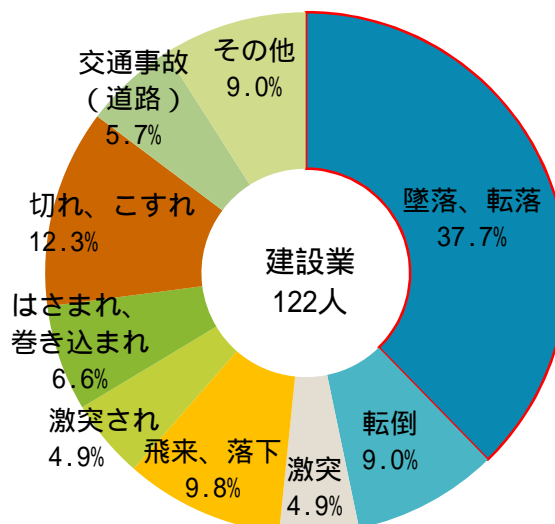


建設業

事故の型別では、高所等からの「墜落・転落」災害が46人(37.7%)と最も多く、次いで「切れ、こすれ」災害が15人(12.3%)、「飛来、落下」災害が12人(9.8%)、「転倒」災害が11人(9.0%)、「はさまれ・巻き込まれ」災害が8人(6.6%)となった。

また、死亡者は2人で、「墜落・転落」災害、「高温・低温の物との接触」によるものであった。

図12 建設業死傷者数「事故の型」別発生状況 コロナウイルス感染症を除く

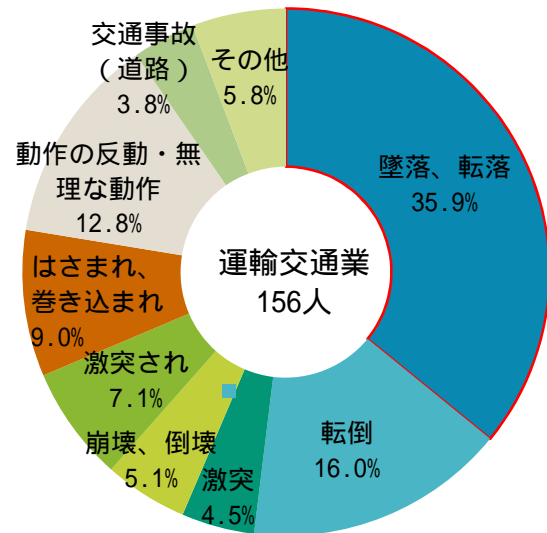


運輸交通業

事故の型別では、トラック荷台等からの「墜落・転落」災害が56人（35.9%）と最も多く、次いで、通路、作業床に起因する「転倒」災害が25人（16.0%）「動作の反動・無理な動作」災害が20人（12.8%）となっている。

また、死亡者は2人で、「交通事故（道路）」、「崩壊・倒壊」災害によるものであった。

図13 運輸交通業死傷者数「事故の型」別発生状況
コロナウイルス感染症を除く

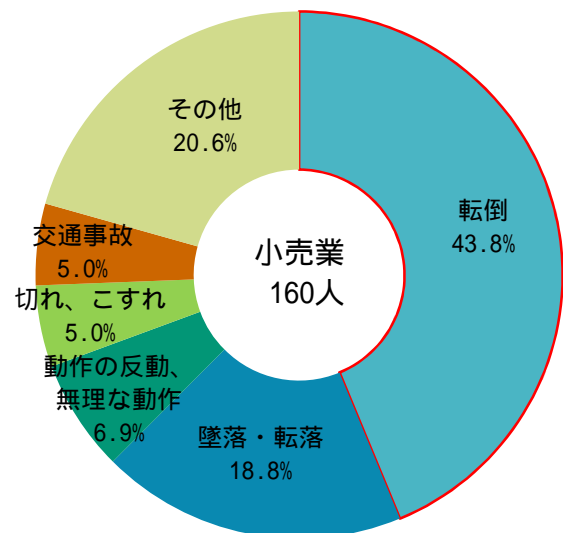


小売業

事故の型別では、作業床、通路等に起因する「転倒」災害が70人（43.8%）と最も多く、次いで、階段、脚立、トラック等からの「墜落・転落」災害が30人（18.8%）、「動作の反動・無理な動作」災害が11人（6.9%）となっている。

なお、死亡災害は発生していない。

図14 小売業死傷者数「事故の型」別発生状況
コロナウイルス感染症を除く



社会福祉施設

事故の型別では、作業床、通路等に起因する「転倒」災害が44人（40.7%）と最も多く、次いで、介護作業、荷姿の物などを起因とする腰痛等の「動作の反動・無理な動作」災害が26人（24.1%）、「墜落・転落」災害が17人（15.7%）となっている。

なお、死亡災害は発生していない。

図15 社会福祉施設死傷者数「事故の型」別発生状況
コロナウイルス感染症を除く

